

博士課程教育リーディングプログラム 平成29年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
機関名	北海道大学	全体責任者（学長）	名和 豊春
類型	オンリーワン型	プログラム責任者	長谷川 晃
整理番号	F01	プログラムコーディネーター	堀内 基広
プログラム名称	One Healthに貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

<プログラムの目的>

「One World - One Health（一つの世界，一つの健康）」という概念が示すように，地球上の生態系の保全は，ヒトおよび動物の健康の両者が相まって初めて達成できるものである。その実現と維持のためには，ヒトと動物の健康維持に向けた取り組みが必要である。感染症および化学物質による健康被害からヒトと動物の健康な生活環境を守るために，ヒトと動物の健康維持および生態系の保全を担う使命を持つ獣医師および獣医科学の寄与が世界的に求められている。そこで本プログラムでは，「One World - One Health」の実現に向けて，我が国のみならず世界の獣医科学の発展に寄与することのできる人材の育成に加え，感染症病原体とそれによって引き起こされる感染症，ならびにケミカルハザードの本質とそれがヒト，動物および生態系に与える影響に関して，グローバルな視野と俯瞰力を持って当該分野の教育研究の推進および対策にリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目的とする。

<大学の改革構想>

本学では第二期中期目標として，「国際的通用性を持つ柔軟な大学院課程を構築する」こと，「教育の国際的通用性を向上させ，学生の国際的流動性を高める」ことを掲げ，平成22年度に①本学の教育研究組織間の連携を強化し，教育機能の向上を図ることを目的として高等教育推進機構を設置するとともに，②外国人留学生の受入支援，国際的な人材育成を目的として国際本部を設置した。さらに平成24年度から高等教育推進機構に大学院教育部を設置して，リーディングプログラムの推進と大学院共通教育の企画・調整を行っている。また，同じく第二期中期目標として，「世界水準の優れた研究者育成のための諸方策を次世代にわたる長期的な視点で継続的に実施する」ことを掲げ，平成21年度に博士課程学生等のキャリア形成の支援を目的として全国で初めて人材育成本部を設置し，若手博士研究者の社会進出を重点的に支援している。本リーディングプログラムでは，人材育

（機関名：北海道大学 類型（領域）：オンリーワン型 プログラム名称：One Healthに貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム）

成本部と連携して博士課程学生のキャリアパス支援の体制を一層強化していく。

本リーディングプログラムで実施する①外国人特別枠を設けて優秀な外国人留学生を獲得する入学者選抜制度，②英語により行う教育の強化，③海外のフィールドや機関での実践的な演習やインターンシップを取り入れた国際舞台における教育の単位化は，本学の中期目標を達成するための全学的なモデルケースとなる取組であり，国際本部とも連携しながら国際化を推進していく。さらに，本リーディングプログラムで構築する授業科目を本学の特徴の一つである大学院共通教育の充実のために活用し，医学，歯学，薬学，その他の生命科学系の研究科の授業科目を充実させることで，全学的な大学院教育の改革を推進する。

2. プログラムの進捗状況

平成29年度は平成24年度開始した年次進行型の大学院教育カリキュラムの5年目となり，本プログラムの第3期生27名を輩出した（単位取得退学者5名を含む）。うち，13名が人獣共通感染症対策専門家養成コースを修了し，2名がケミカルハザード対策専門家養成コースを修了した。

- ①単位取得を必要とする活動である，海外実践疫学演習/海外共同研究演習に9名を派遣した。インターンシップに23名を派遣した。インターンシップでは，本プログラムがキャリアパスの一つの方向と考えている，WHO，OIE等の国際機関にも学生を派遣してきた。
- ②One Healthなど，プログラムの重要コンセプトについて，グループ討論して理解を深めることを目的としたワークショップを3回開催し，グローバルリーダーのイメージの具体化を図った。
- ③英語教育を担当する外国人特任助教を継続雇用し，学生のニーズと能力に応じたオーダーメイド式の英語クラスを開講し，学生の英語力の向上に努めた。
- ④外国人特別選抜および自学部外（日本人）特別選抜の特色ある大学院入学者特別選抜を含む大学院入学者選抜を実施して，バックグラウンドの異なる優秀な学生の獲得および多国籍（20国籍，留学生の割合：約45%）からなる大学院クラスの構築を継続した。
- ⑤奨励金制度，TA/RA制度，大学院学生科学研究費制度，海外派遣支援制度などの大学院学生各種支援事業を遅滞なく実施した。
- ⑥大学院学生が企画・運営するリーディングセミナー，研究討論会Progressの定期開催を支援した。
- ⑦若手教員と大学院学生が企画運営する国際シンポジウム”The 5th SaSSOH”を開催し，領域横断的視野および国際性の醸成に務めた。
- ⑧奨励金制度を継続し，計41名に奨励金を支給した（支給額：月額20万円～14万円）。10名をリサーチアシスタントとして，64名をティーチングアシスタントとして雇用した。
- ⑨大学院学生科学研究費公募要領を作成して学生に周知し，研究計画を公募した。71件の応募があり，審査の結果21件を採択した。一件あたり40～30万円を支給した。
- ⑩Brain Circulation Scheme for One Healthで1名の海外の研究者・実務担当者（スーダン）を2ヶ月間招聘し，大学院授業への出席を通じた大学院学生との共同学習，大学院学生への講義，および共同研究等で大学院学生とともに活動し，国際ネットワークの構築および異文化交流を含め国際感覚の醸成に努めた。
- ⑪ダブリン大学との学生交流プログラムを継続した。教員3名，大学院生8名を派遣して，大学院授業モジュールAdvances in Infection Biologyの受講，研究発表等のプログラムを実施した。
- ⑫国内外の卓越した専門家を招聘し，Leading Seminarを5回，特別講義を2回開催した。大学院講義を含め，海外から13名，国内から18名の計30名を招聘した。
- ⑬キャリアパスセミナーを3回開催した。琉球大学医学部教員，東京大学工学部教員，大手製薬会社元役員などアカデミア以外のキャリアパスの啓発を意識した講師を各所から招聘した。

- ⑭大学院学生が自主的にイニシアティブを持って企画運営する研究討論会「Progress」および講演会「Leading Seminar」を継続実施し、Progressを12回、Leading Seminarを5回開催した。幅広い分野から専門家を招聘した。若手教員で組織する学生支援委員会がこれらの活動の円滑な推進を支援した。
- ⑮第5回Sapporo Summer Seminar for One Health (SaSSOH) を平成29年9月20-21日に開催した。国内外から計193名が参加した。昨年度に続き学生組織委員会による” Student Session” を企画した。
- ⑯One Healthなど、プログラムの重要コンセプトについて、グループ討論して理解を深めることを目的としたワークショップを3回開催し、グローバルリーダーのイメージの具体化を図った。特に第5回ワークショップではリスク分析を行い、実際の現場で専門家としてのメディア対応を想定し、専門知識をもって世界に発信するコミュニケーション能力を英語でトレーニングを行った。
- ⑰第5回Sapporo Summer Seminar for One Health (SaSSOH) では、「Enjoy Science!」というテーマを下に開催した。” Student Session” は学生が主体となり企画し、ゲームの要素を取り入れた議論と発表を行った。またプログラム修了生も参加し、在学生へ向けてのプレゼンテーションを行った。
- ⑱自己能力向上のため、大手製薬会社元役員で人事担当の経験がある先生を招聘し、キャリアパスラウンドテーブルディスカッションを開催して、自分の強み（コンピテンシー）を知り、それをキャリアパスに活かすためのディスカッションを行った。
- ⑲新設された国際感染症学院と獣医学院の大学院カリキュラムと本プログラムとのすり合わせを行い、補助期間終了後の支援体制を整備した。
- ⑳プログラム修了生の意識・動向調査のためにWebシステム、ポートフォリオ” Vetlog” を構築し、運営している。本Vetlogに修了生が参画するグローバルネットワークを充実させ、在学生をサポートしていく体制作りを行った。